

4 温室効果ガスの排出の状況

基準年度（令和6年度）の温室効果ガス排出の状況

①エネルギー起源二酸化炭素の排出量		2,321	t-CO <sub>2</sub>
① （温を除く 二室除く 酸効く 化果 炭ガ 素換 排 算 出 量）	②非エネルギー起源二酸化炭素		t-CO <sub>2</sub>
	③メタン		t-CO <sub>2</sub>
	④一酸化二窒素		t-CO <sub>2</sub>
	⑤ハイドロフルオロカーボン類		t-CO <sub>2</sub>
	⑥パーフルオロカーボン類		t-CO <sub>2</sub>
	⑦六ふっ化硫黄		t-CO <sub>2</sub>
	⑧三ふっ化窒素		t-CO <sub>2</sub>
	温室効果ガス総排出量（①～⑧合計）		2,321

5 温室効果ガス排出量の抑制に係る目標

（1）温室効果ガス排出量の抑制目標

温室効果ガスの抑制の目標設定方法	総排出量
------------------	------

項目	基準年度 令和6年度 排出量（実績）		目標年度 目標排出量		令和9年度 目標削減率	
	温室効果ガス 総排出量	2,321	t-CO <sub>2</sub>	2,286	t-CO <sub>2</sub>	1.5

項目	基準年度 令和6年度 排出量（実績）		目標年度 目標排出量		令和9年度 目標削減率	
	原単位当たりの 排出量		t-CO <sub>2</sub>		t-CO <sub>2</sub>	

（2）目標設定の考え方

エネルギー消費の抑制に全社的に取り組む事により、毎年0.5%の温暖化ガス排出量の削減を目指す
--

備考1 温室効果ガスの排出の状況のうち、エネルギー起源二酸化炭素を除く温室効果ガスの排出量については、温室効果ガスの種類ごとに3,000トン以上の場合に限り計上してください。  
 備考2 温室効果ガス総排出量とは、エネルギー起源二酸化炭素の排出量と、種類ごとに3,000トン以上の温室効果ガスの排出量の合算をいいます。  
 備考3 原単位当たりの排出量とは、事業活動の特性を的確に示すものとして事業者自らが選択する工場等の床面積、製品の出荷量その他の指標になる単位量当たりの温室効果ガス排出量をいいます。

6 温室効果ガスの排出の抑制等に係る措置

(1) 自らの事業活動に伴い排出される温室効果ガスの抑制に係る措置

取組の区分	具体的な取組の内容	取組の目標
タグボート主機での燃料消費削減	主機運転に関わる燃料消費量をモニターし、出来るだけ回転数を上げない事と効率的な配船を行い燃料消費の削減を目指す。	定性的なモニターと現場へのフィードバック、並びに実績を踏まえての毎年の目標値（KPI）設定
節電	昼休みの際の事務所内消灯の励行、無人箇所のおまめな消灯、及び冷暖房使用時の事務所ドアの閉鎖	総務部を中心に実施
省資源	事務所からの一般廃棄物（可燃ごみ）削減努力と、紙リサイクルの推進	総務部を中心に実施 ゴミ・リサイクルの排出量モニター
教育・訓練	環境ボランティアへの参加を通し、社員全般の環境意識の向上に努める。	環境ボランティアへの参加
環境活動の推進	各船環境推進委員会の月例報告を基に環境活動を推進する	船内業務委員会の実施

指針第1号様式

(2) 非化石エネルギーへの転換に関する措置

ア 非化石電気に関する目標

指標	目標 (2030年度)
使用電気全体に占める 非化石電気の比率	%

イ 計画期間における非化石エネルギーの利用

--

(3) 環境価値 (クレジット等) の活用

--

(4) その他の地球温暖化対策に係る措置

--

(5) 「環境保全の日」等に特に推進すべき取組

--